

心不全薬ジギタリスは死亡率を増加する

心臓薬として 200 年以上使われてきたジギタリスの効果に疑問が持たれている。1997 年、大規模臨床試験により、ジギタリスは心不全の死亡率を改善しないことが明らかにされ、不整脈を増やす可能性が指摘されていた。

一方、ジギタリスは、また、心房細動という不整脈の頻脈を治す治療にも使われてきた。AFFIRM という研究では、4,060 人の心房細動の患者群をリズム制御と頻脈制御の 2 群に分け 4 年間（平均 3.5 年）観察した臨床研究である。今回の研究では、ジギタリス薬の一種であるジゴキシンを服用した群 (2,153 人) と、ジゴキシンを服用しない群 (1,905 人) に分け、心不全のあるなしに関してジゴキシンにより、寿命が延びるかどうかを検討された。

その結果、ジゴキシンは、死亡全体を 41%、心臓血管死を 35%、不整脈による死亡を (61%) 増加することが明らかになった。全死亡は、心不全のあるなしに関わらず 37% 増加した。

このことから、心房細動に広く用いられているジギタリスの使用には注意が必要であると警鐘が鳴らされている。

(出典： European Heart Journal 2012, Nov 17,
Epub. Doi:10.1093/euroheart/ehs348)